



Rin Rin No.129

りんりん通信 2022年11月発行

りんりんの会
(乳がん体験者の会)

♪『RinRin 定例会』 & 『CoCoRin の集い』 開催しました ♪

● 9/10(土)10:00~11:30 RinRin 定例会開催 (大崎市図書館 2階研修室)

【参加者：1名+スタッフ4名】

- * 数年前から何度か「りんりん研修会」に参加していただき、りんりんの活動のお役に立てることはないですか？とお声がけいただいていた患者様が今回の参加者でした。
 - * 現在は術後治療中(休職中)。今後「ちゃんと仕事復帰できるのだろうか」、「周りに迷惑をかけると思いながら休んで家にいると孤立したように感じる」・・・などお話しされていました。
 - * 先輩体験者からは「私もそうでしたよ」「そんな風に思ってしまうですね」という声と、実際に復帰したときの苦労話などが話題にあがりました。「仕事は辞めない方がいいですよ」と言われますが、やはり体力や行動制限、通院のための休暇など、現実には周囲に理解してもらわなければいけないことが多々あり、少し踏ん張りが必要になってくるという話もありました。
 - * 参加された患者さんから「あんまり無理しない方がいいんだと思えるようになった」との感想を頂きました。
- ※1名の参加でしたが、話せる場があることで安心や希望に繋がっていただけたらいいな～と感じました。

● 10/15(土)13:30~15:00 CoCoRin の集い開催 (大崎市図書館 2階研修室)

【参加者：1名+スタッフ5名】 ※ここりんは若年層(40代くらいまで)の患者様対象の会です。

- * 今回の参加者も仕事復帰のことで悩まれているということと、その話題が中心になりました。環境的なこと(お子さんが小学生・核家族)もあり、労働時間や仕事内容などが限定されることと合わせて、病気のことを言った方がいいのか、言わない方がいいのか、悩んでしまうとのこと。
 - * 今できること・したいこと(夢中になれること・楽しめるもの)、今しかできないこともあるかも?…という話もあり、「焦らないことが一番だね」という結論に達しました。
- ※他に子供さんたちとの関わり方(病気のことをどう伝えたか、子供の反応はどうだったかなど)も話題になりましたが、余談で、近くで目新しい(美味しい)お店はないか…等女子会的な話題でも盛り上がり、そんな時間も嬉しく思いながら終わることができました。

* りんりんの思いと願い *

～凜・輪・鈴～

* 凜(りん)として

何事にも揺るがずに 凜としてしっかりと前を向いて歩いて行きたい 毅然として生きていたい・・・**自分**のために!

* 輪(りん)として

一人では何も出来ず落ち込んでしまう時“一人じゃないよ” “仲間がいるよ”と 輪を拡げて行きたい・・・**仲間**のために!

* 鈴(りん)として

辛い体験者を増やしたくない思いを社会に伝えていき、会の活動が広く**鈴々**と響いて行けます様に・・・**社会**のために!

♪ りんりん通信に寄せて No.54 ♪



オンライン

大崎市民病院乳腺外科科長 吉田龍一

最近、オンライン診療するなどと言われていますが、常識的に乳がんの診療をオンラインでできるはずはありません。いくらかかりつけとは言え、モニター越しに顔を見て問診するだけで診断するなんて、現実には極限られた状況でしかできません。大概の医療行為（検査、注射、手術など）はオンラインで行うことは物理的に不可能です。医師がテレワークで、自宅でオンライン出産なんて到底ムリですよ。では、医療の世界ではどんなことがオンライン化されているのでしょうか。

新型コロナ流行のおかげで 3 密回避（3 密、覚えていますか？）のため、医学学会も現地集合型ではなくオンラインであったり、現地集合 + オンラインのハイブリッド形式がなされる様になりました。例えば、日本乳癌学会なるものが毎年全国のどこかで開催されていますが、コロナ禍前までは、学会出席のために仕事を休んで遠くまで行く必要がありました。しかし、オンラインで開催される様になったため、自分のパソコンで学会参加できるようになりました。このことは賛否両論ありまして、オンラインでは集中力が続かないとか、直接質疑応答ができない、人的交流や観光ができないなど否定的な意見もありますが、僻地で人手も足りず忙しくて、とても学会には参加できないという医師にとっては学会参加が容易になります。

また、最近ではロボット手術なるものが実際になされる様になり、大崎市民病院でも近日導入することとなり準備を進めています。ロボット手術というのは鉄腕アトムやマジンガーZ のようなロボットが人に替わって手術をするというのではなく（これは現実的にまだ不可能）、腹腔鏡手術の延長線で、通常の腹腔鏡手術ではお腹をガバッと切らずに、特殊な形状のはさみやピンセットなどの器械をお腹に貫通させ、術者とそれを助ける助手とカメラを持つ助手の 3 人で、お腹の中の映像を見ながら協力して手術するわけですが、ロボット手術では必要な遠隔操作できる器械をセッティングしたのち、手術野から離れたところでモニターを見ながら 1 人でジョイスティックのようなものを動かして器械操作して手術するものです。まるで TV ゲームの世界です。極端なことを言えば、海外にいる医師が、オンラインで遠隔操作が可能になります。そういう時代ももうすぐです。

また、多くの医療機関では電子カルテ（個人的には医師のためというより、レセプト、診療報酬請求のためのも思っていますが）が使われています。かつての紙カルテでは、カルテのある場所に行かないと見ることはできませんでしたが、オンラインで繋がった端末があれば院内どこでもデータや記録を見ることができます。ご存じの様に、レントゲン写真もモニターさえあればどこでも見られます。ただし、セキュリティの問題から外部のインターネット環境には接続されていないので個人のパソコンからのアクセスはもとより、他院の電子カルテとも繋がってはいません。

実際に行っているものとしては、病状の安定したかかりつけ患者の処方や病理診断、画像診断です。病理診断では、遠く離れた施設で得た手術標本などを大学病院の病理医が診断する、テレパソロジーというものがあります。当院でも常勤の病理医が赴任する前は使っていました。CT や MRI などの読影も放射線診断医が自施設にいて遠くの施設の画像を見て診断することが可能です。私も当院健康管理センター（旧病院の救急病棟）で撮影されたマンモグラフィは本院でオンライン読影しています（他院で撮影されたマンモグラフィを見ることはできません）。

このように、遠くの学会に行かない、診療のために遠くの病院に行かない、カルテを見るために病棟へは行かないというように、医師の移動が減り時間を有効に使えます。セカンドオピニオン外来とか人手が足りない施設などではこれら IT 技術を駆使すればよりよい医療環境になるような気がしますが、いかんせんカネがかかります。国もばらまきなどやめてこういったことに税金を使ってほしいものです。

歴史的に遠方への情報伝達は、太古から人が移動して直接会って伝えていましたが、スピードアップのため、のろしによる合図から始まり、手紙を飛脚や伝書鳩で届け、交通や電気などのインフラの発達に伴い、郵便、電報、電話と進化、さらに携帯電話、テレビ電話、多くの場所から参加できるテレビ会議などここ数年で飛躍的に進歩したと思います。

現在、リニア新幹線など躍起になって造っていますが、将来、ビジネス目的の移動はオンラインに変わり、旅行や里帰りなど個人的理由でしか長距離移動することは無くなるかもしれません。遠く離れた友人とオンライン飲み会したり、便利な世の中になったかも知れませんが、カルテもホントは手書きが好きなアナログな私としては、ゆっくり景色を楽しみながら遠くに旅をして、懐かしい友に現地で会って酒を飲み交わすような、結果だけでなくそまでの過程をも楽しむ方が好きかも知れません。



♪ 今後の活動予定 ♪

【定例会】

- 11月26日(第4土) RinRin 定例会開催
- 12月24日(第4土) RinRin&CoCoRin クリスマス会
- 開催場所：大崎市図書館 2階研修室 開催時間：10:00～11:30

【補整用パッド作り講習会】


- 12/14 (第2水) * 2023.2/8 (第2水) 13:30～15:00
開催場所：大崎市民病院がんサロン
- 2023.1/23 (第4月) * 3/6(第1月) 13:20～15:00
開催場所：石巻赤十字病院ブレストセンター がんサロン

※ ご希望により定例会時でのパッド作り講習会も可能です。

※ 事前申込が必要です。状況により中止や変更もあります。ご確認ください。



<参加申し込み・お問い合わせ>

- りんりん携帯 090-6259-9205 (金・土・日/対応可能)  strinrin320@gmail.com

* 協力医療機関：大崎市民病院 地域医療連携室 *